

京都府立大学
文学部歴史学科
ニューズレター

れきしんぶん

2018年 春夏号
(創刊号)

京都府立大学歴史学科について

歴史学科は、これまで多くの勤勉で優秀な卒業生を送り出してきました。少人数教育が特徴ですが、とくに文化遺産学コースとあわせて一つの学科で日本関係の指導を9名で行う教学体制は全国でもまれな充実したものですし、東洋関係4名、西洋関係3名の指導体制も他学に引けをとりません。学生は、3回生で自分の専門を決めるまでに、16名の教員から国内外・多様な観点で問題を追及する能力を養えるのです。京都で歴史を学びたいなら、ぜひ本学を覗いてみてください。

(学科主任・渡邊伸)

新入生合宿！ in 朽木・若狭・菅浦

5月18日・19日、毎年恒例行事である歴史学科新入生合宿研修が行われ、1回生が朽木・若狭・菅浦を訪れました。

1日目は、ろうソクの灯だけの暗い中で執り行われる「たいこ廻し」というお祭りで有名な葛川明王院、近年リニューアルされ、地元の方々も制作に携わった竪穴住居がある若狭三方縄文文化館、若狭地方の祭りや仏像・芸能などの文化遺産と、それらを育んだ若狭の歴史を紹介した若狭歴史博物館、国指定史跡を含み、朝鮮半島から渡ってきた出土品も数多く

発見された上中古墳群、若狭から京都を結ぶ若狭街道（通称「鯖街道」）の宿場町であった熊川宿を巡りました。

2日目は、国の重要文化的景観に選定されている菅浦の湖岸集落で自由行動でした。1回生の荒井さんは、菅浦地区について、「ヤンマーの小さな工場が点在しているのが興味深かったです。また、歩いていたら突然人が1人2人通ることのできる大きさの四足門が現れて驚きました。」と話してくれました。

1回生の村井さんは、「どこも興味深かったけれど、一番思い出に残ったのは、上中古墳群の一つであり全長90メートル・高さ9メートルという巨大な上ノ塚古墳の上に登ったことです。」と述べていました。また、「初めての学科行事ということで学生同士の中も深まり、歴史学科で過ごしていくための足掛かりとなりました。これからも文化遺産に足を運びたいです。」とこれからの意気込みも語ってくれました。

(鈴木更紗)

→ 上ノ塚古墳にて撮影



特集

諫早先生・本庄先生 特別インタビュー

2018 年度から新任された諫早直人先生と本庄
総子先生に、歴史学や府大の魅力について聞きま
した。

—ご自身の専門分野について、その専門に進まれ
た理由や魅力を教えてください。

本庄 日本古代の帳簿についての論文を書いてい
ます。ただ日本古代史は史料が少ないので、日本
古代史に関連するもの全て自分の専門という気持
ちです。なので、自分で史料を読んで、面白いと
感じたところが自分の専門だと思っています。日
本古代史は史料を非常に論理的に読まなければなら
ない分野です。それを突き詰めていくと、1000
年前の我々の常識の届かない全く違う世界が見え
てくるのがよくあり、大変面白いです。文献史
学は、その時代時代に残った史料を自分の目で見
て判断することができるということが魅力だと思
います。



↑ 本庄総子先生

↑ 諫早直人先生

諫早 僕は考古学で馬具を中心に研究しています。
日本の何時代、という地域ごとの縦割りではなく
て、広い枠組みで歴史をみるときに、馬というテ
ーマが面白いんじゃないかと思い、修士から勉強
し始めました。考古学は、自分たちで資料を獲得
するところから始まりますが、その資料は偶然に
左右されます。いろいろな空白がある中で、今あ

る資料をできるだけ細かく観察し、現時点で最も
妥当性の高い歴史像を復元していく作業が考古学
の楽しいところかなと思います。

—この大学に赴任されて2か月ほど経ちましたが、
その間に感じた府大の魅力はなんだと思います
か？

諫早 みんな真面目で、先生方も仲がいいという
のはいいことだなと思います。もっと規模が大き
い大学だというのはなかなかないと思うので。

本庄 まずは、環境がいいです。静かで、空気がき
れいです。あとは、学生の皆さんの中に学問をや
ろうという意欲のある方が多いところです。大学
に来ると、プロの世界に触れることができます。
その機会をフルに活用したいという方にはぜひ来
ていただきたいです。

—ありがとうございました。 (鈴木美命)

岸先生が書評会にて発表されました

6月9日、都市史学会主催の高橋慎一郎・千葉
敏之編『移動者の中世 史料の機能、日本とヨー
ロッパ』(東京大学出版会、2017年)の書評会で、
建築史の岸泰子先生が発表なされました。この書
評会では、日本史・西洋史・建築史・美術史とい
った多様なジャンルの研究者が「移動」をテーマに、
議論を繰り広げました。

岸先生は「普段は読むことのない分野の論文を
読むことで、新たな視点を得ることができ面白
かったです。」と述べておられました。また「私は建
築学科出身で、センター試験で触れた日本史が仕
事になるとは思ってもいませんでした。専門だけ
でなく様々なものに触れることはいつか役に立つ
ということを実感しました。」とおっしゃいました。



← 書評会の様子